

自治体病院統合による図書室業務の現状と課題

望月 雅子¹⁾、坂本 良子²⁾

¹⁾ 袋井市立袋井市民病院図書室、²⁾ 掛川市立総合病院図書室

I. はじめに

掛川市立総合病院（以下、掛川）と袋井市立袋井市民病院（以下、袋井）は平成 25 年 5 月に掛川市と袋井市が統合した新病院「中東遠総合医療センター」の開院を控えている。隣接する二つの市立病院が統合して一つとなるため、図書室業務においても様々な問題があり、新病院での限られたスペースの有効活用を考え、両院図書室担当者が現在まで取り組んできた内容と今後の課題について報告する。

II. 両院の図書室状況（平成 24 年 4 月現在）

	掛川（広さ 133.94 m ² ）	袋井（広さ 71.88 m ² ）
蔵書数(保存年数)	単行本 7,326 冊（必要に応じて） 製本済雑誌 約 9,000 冊(15)	単行本 8,446 冊(20) 製本済雑誌 10,312 冊（永久）
購読タイトル数	和 85、洋 40、目録総タイトル数 272	和 84、洋 24、目録総タイトル数 389
相互貸借(H23 度)	他機関へ依頼 624 件、他機関より受付 412 件	他機関へ依頼 366 件、他機関より受付 1,115 件
備品等、その他 （※両院とも ID・PW 認証）	雑誌架、書棚（棚 56（倉庫 19））、閲覧机 PC6 台、カラーコピー機、医中誌 web※、メディカルオンライン※、今日の診療、UpToDate	移動書架、雑誌架、書棚、閲覧机、PC5 台、白黒コピー機、医中誌 web※、MD-Consult※、Ovid EBMR、UpToDate

III. 新病院図書室について

設置場所は 2 階の医局近くに位置し窓はない。当初の図面上は 63 m²で、袋井の図書室より狭く、掛川の半分以下のスペースで双方の貴重な文献資料を保管する倉庫の確保はない。隣接する小会議室や当直室の位置を移動するよう要望した結果、広さ 107 m²となった。移動書架、書棚含め、単行本 6,000 冊、製本済雑誌 10,000 冊収納予定。移動書架については天井に近い高さを希望したが、消防より天井から 45cm あけなくてはならないと指摘が入り 7 段の予定が 6 段となった。雑誌架 11 台、閲覧机等を設置予定。カラーコピー機と独立したファックス番号の取得、インターネット環境の充実（固定 IP 認証）を要望している。

IV. 今後の課題と展望

平成 22 年 7 月にタイムスケジュール作成後、図書室の構成と構造上の意見要望などを新病院事務局担当者で打合せ中である。新病院へ移設する蔵書選定や廃棄、所蔵リストの統一化など統合に向けての方向性や、平成 25 年 1 月からの年間購読雑誌や医療情報を収集するためのデータベースやオンライン上のジャーナルは契約ができるのか運用方法や予算などが検討課題は多い。

新病院においては病院組織の中の図書室位置付けが明確で、電子ジャーナル導入による利用者のニーズに迅速に対応できる環境でありたい。